

長崎貿易と大坂

はじめに

1) テーマ

①近世後期からの長崎貿易において大坂は心臓の役割をはたした

- ・長崎貿易においても大坂が流通と金融の中心となった。
- ・大坂の銅座と唐薬問屋が中核となってその役割を果たした。
- ・大坂会所の紹介：大坂に所属する本商人の監督と補助

*今回の内容は、18世紀後半を基準に構成

17世紀：輸入方式が入札と指し値をくり返す

18世紀：文政頃から三井など有力両替商が銅座の金融に参加

*個々の事実や知見は先学によって明らかにされているものが多い。しかし、このような事実や知見は大坂＝銅座・唐薬問屋に焦点をあてて整理されていない。

2) 交易と貿易と大坂

①国内の交易において大坂が商業・金融の中心地であったことはよく知られている。

②長崎貿易においても大坂が同様の役割をはたしていたことが知られていない。

- ・日本経済史の本に長崎貿易の記述は極小

例：岩波書店『日本経済史2』(1989) 宮本又次『大阪の商業と金融』(1973)

- ・大阪人の関心の低い

③長崎貿易に関する一般的理解：大坂に対する関心は低い

3) 講演の構成

1 長崎貿易概観

- 1) 長崎貿易
- 2) 長崎会所と五ヶ所会所
- 3) 大坂会所
- 4) 貿易の手順

..... 休 憩

2 長崎貿易の課題と大坂の役割

- 1) 長崎の飯米をどのように調達するか
- 2) 輸出商品の調達と長崎への回送：棹銅 俵物
- 3) 本商人の落札代銀を回収
- 4) 輸入商品の国内流通 : 唐薬種

◆今回利用した中央図書館、市史編纂所の史料

- ・「大阪銅座方覚書」
- ・「唐物方」
- ・「操縦類聚抄本」
- ・「長崎在勤四ヶ所糸割符年寄勤方書」「四ヶ所宿老附惣代勤書」
- ・「四ヶ所請払役・同糸目利役勤方書」

【第1部 長崎貿易概観】

1 長崎貿易

1) 4つの貿易窓口 長崎・松前(蝦夷)・対馬(朝鮮)・薩摩(琉球)

2) 輸入品：生糸 絹織物 薬種 砂糖 書籍など

3) 輸出品

① 棹銅(御用銅)

・江戸初期の100年間に国内の金の4分の1、銀の4分の3が海外に流出

・17世紀後半から銅や俵物が増加(×銅貨 ○代物=商品としての銅)

棹銅や俵物は貨幣にかわる貿易決算品として重視される

・大坂は、御用銅の唯一の精錬地

・荒銅を大坂に集荷する努力

諸国の鉱山から荒銅を買い取る→銅吹屋が精錬・加工する

→長崎で外国人に売る

・大坂に銅座開設(1776年)

② 俵物(ふかひれ ほしあわび なまこ)

・当初、長崎商人が調達を請負う(俵物一手請方)

・1785年、長崎会所の直轄とし、長崎と大坂(北浜一丁目)に俵物会所を置く

俵物会所：長崎 大坂

俵物問屋：下関 松坂

俵物差配人：江戸

・大坂銅座役人の兼職 = 輸出代物は銅座の管轄

4) 大坂の輸入関連業者

◆五ヶ所(長崎、京都、堺、江戸、大坂)の商人。五ヶ所商人、五ヶ所糸割符仲間

A 糸割符商人 少数

・大坂では糸割符商人の利権と所有が分離→入札には参加しない

利益①貿易利潤の配当を受ける

②輸入品の輸送・保管・融資で利益を得る

*並合…本商人に対する融資(落札商品を担保)

・糸割符宿老(年寄)は家質根証文を担保に本商人に入札株を与え、長崎会所に対して身元保証人になる。大坂の糸割符宿老は惣年寄。長崎では大坂会所宿老

B 本商人 多数

・つてのある糸割符宿老から、根証文と引き替えに、入札権(入札株)を得る
→その都市の本商人として登録される

・唐反物問屋、唐薬問屋が多い→19世紀

・大坂の本商人は大坂に本店があり、長崎には支配人を置く例が多い(「唐物方」)

・経営が不安定な業者もいる→落札代銀を延滞・未納する可能性がある

・所属する本商人の代銀未納は糸割符宿老の責任(「唐物方」)

5) 貿易窓口の機関

★長崎会所が輸入品を一括購入。その後、本商人が落札する2段階の手順をとる

- A 長崎会所 : 外国人との貿易を管轄
長崎地役人が管理
- B 五ヶ所会所 : (本商人が) 落札した商品の保管・輸送を管轄
各都市ごとに会所がある (例: 大坂会所)
- C 大坂会所 : 大坂所属の本商人を管轄

2 長崎会所

- ①長崎地役人主体の運営 (地役人は町人が主体)
- ・貿易の利益で都市長崎を運営
- ②貿易取引を管理
- ・銅や俵物などの決済を一本化
 - ・銅や俵物などの集荷を実現
 - ・貿易の利益を糸割符商人、長崎市政費用、長崎運上 (幕府へ上納) に分配
- ③貿易利潤の管理
- ・幕府へ貿易の利益の一部を上納
 - ・糸割符仲間への配当
 - ・都市長崎市政の財源

3 大坂会所

- ①長崎会所とは別に大坂会所や江戸会所がある。
五ヶ所会所と同一か、その一部かは不明
- ②職員
- ・会所のトップは惣年寄で、毎年交替で大坂から長崎に出張してくる。その他、調役・目付役・吟味役・請払役・惣代・筆者などの職員がいる。
- ③役割
- i 大坂所属の本商人を監督
- ・会所年寄(宿老)が入札を希望する商人に入札株を交付→本商人
 - ・大坂会所は入札に関わる大坂所属の本商人を監督する役所である。
本商人は五ヶ所の都市のどれかに所属する。大坂会所は大坂に所属する入札商人の根証文を管理する。本商人が落札した代物を上方方面に津出し(出荷)する際の手続業務をおこなう。
*根証文: 落札代銀を保証する証文
- ii 落札荷物の管理: 蔵入れ 封印 蔵出し 津出し(「四ヶ所宿老附惣代勤書」)
- iii 入札代銀の授受
- ・落札商人から白糸代銀を受け取り長崎会所に渡す

4 貿易の手順

- ①長崎会所に輸出代物(棹銅・俵物)が集まる →入荷量によって輸入額が決まる
- ②長崎会所で外国人から指し値で購入

- ③長崎会所で本商人が入札
- ④大坂会所、所属する本商人の落札荷物を蔵に保管
- ⑤本商人、落札代銀を大坂会所に納入（大坂会所→長崎会所へ納入）
 - A長崎会所に代銀納入：荷渡後 50 日以内
 - B大坂銅座に代銀納入：目録差立日から 30 日以内
- ⑥蔵出しと荷作り
 - 五ヶ所宿老の手板(正規輸入品であることの証明)を付ける／薬種には手板と入日記
 - 陸路（糸・反物・高価薬）、糸荷率領仲間→京・大坂・堺の長崎問屋が荷受
 - 海路（雑薬・荒物・小間物類）、糸荷廻船→同上
 - *入日記：貨物の内容証明書
- ⑦大坂などに廻送。国内での交易

5 長崎貿易の課題

- ①輸出品の確保：いかにして輸出向けの銅や俵物を長崎に集めるか
 - ・荒銅の集荷／銅座の仕入独占 銅座による融資
 - ・俵物の集荷／銅座による融資
- ②落札代銀の回収：いかにして零細な本商人から落札代銀を回収するか
- ③国内流通と販売の促進：いかにして輸入貨物の流通と販売を促進するか
 - i 津出しの円滑化／本商人への信用付与＝根証文
 - ii 大坂における取引の円滑化／唐薬問屋と道修町
 - iii 落札代銀上納の容易化／大坂銅座への支払い

----- (休 憩) -----

【第2部 長崎貿易の課題と大坂の役割】

1 長崎の飯米をどのように調達するか

長崎市民の飯米を大坂城米ほか各地天領米を回送

2 輸出銅の調達と長崎への回送：銅座 （元禄 元文 明和）

1) 銅座

輸出銅の精錬・売買を管理する幕府の役所

明和銅座：過書町（適塾のやや西側）。オランダ宿。長崎御用銅会所

- ①管轄：大坂町奉行、勘定奉行、長崎奉行の管轄

勘定奉行所と長崎奉行所から役人が派遣される

- ②銅座の敷地

為川住之助先代五郎兵衛所持の土地（過書町）

為川は大坂のオランダ宿、元長崎銅会所

- ③長崎会所役人・大坂地役人が執務

吟味役 1 請払役助 1 請払役並 1 大坂地付役 4 同見習 1

同筆者小頭兼手代小頭 1 同筆者小頭役 1 同筆者小頭手代

2) 御用銅 (棹銅)

①大坂城御金蔵から原資を預かる

②原料の調達：全国の鉱山に融資し荒銅を集荷

→すべての銅を銅座が買い上げる=仕入れ独占

前貸：銅山のある藩に銅山方御手当の貸付銀を行う

③製造：荒銅を銅吹屋に提供して御用銅 (棹銅) を製造させる

④購入：原資によって吹屋から棹銅を買い取る

⑤出荷：長崎会所に廻漕

*銅座が資金難のときは銅吹屋仲間で廻漕を請け負う(明和銅座以前)

★長崎会所や本商人は事前に銅の廻着高を確認

⑥支払：棹銅・俵物で輸入品代価を支払う

⑦代金の回収：本商人から落札代銀を受け取り、その一部を銅座に収納。

一部を大坂御金蔵に収納し、一部を原資に回す

*銅座には30日以内に落札代銀上納

3 俵物の調達と長崎への廻送：銅座

1) 俵物：いりこ ほしあわび ふかのひれ

諸色：昆布 茯苓 鶏冠草 錫 所天草 椎茸

2) 俵物会所

・1774年、北浜に俵物会所(西浜町→備後町5丁目→北浜1丁目)

俵物会所	：長崎 大坂
俵物問屋	：下関 松坂
俵物差配人	：江戸

・大坂銅座役人の兼職 = 輸出代物は銅座の管轄

3) 集荷(銅座が荷主に前貸し)

・銅座が北国・東北筋と大坂買入の代銀の立て替え支払い

・銅座が能登・伊予・讃岐・播磨・備前・伊勢・三河の荷主に俵物仕入銀を前貸

4 町奉行所銅座方の役割

町与力のうち、銅方(掛)の仕事：①質銅吟味 ②吹屋の取極

・銅問屋、吹屋、古銅売上人の名前帳保管

名前帳の変更事由を銅座が調査し町奉行所で受理

・諸国から廻着した荒銅を受け取る(到着の届けは当番与力が聞き置く)

・銅座役人とともに荒銅の品質吟味

・長崎御用銅を吹屋から銅座へ。船積み荷物検査

5 本商人の落札代銀を回収：大坂会所・銅座・唐薬問屋

0) 長崎会所がつける指し値や本商人の入札価格の指標

・外国船の「積荷物帳」が飛脚便で大坂に送られ、大坂唐物相場が高下する

→大坂で唐薬種などの先物取引を行い、相場をたてる

A大坂に在庫のある商品の相場が変動する

B建物相場がたつ

- 1) 落札代銀上納に期限が付いたのは、代銀未納がきっかけ
 商人ども前々は納銀仕らざるうち勝手次第荷物さし登せ候。これにより、おびただしき不納これあり候につき、享保17亥年、三宅周防守様御在勤の節、三十日限差銀商売仰せ出され 「長崎在勤四ヶ所糸割符年寄勤方書」
 * 差銀「さきん」売りの金額と買い戻しの金額の差額
 「さしがね」代金の一部を手付金・保証金として支払う金
 * のち、長崎会所へは50日以内、大坂銅座へは30日以内
- 2) 落札代銀支払の方法
 A 大坂以外の四ヶ所：落札商品を担保に借銀して長崎会所に支払い
 B 大坂：大坂の本店から長崎の支配人に送金。支払い。
 * 大坂の商人は未納したことがない (「唐物方」)
- 3) 代銀を未納する本商人の荷物は津出しを禁止
- 4) これに対する大坂会所の対応(長崎)
 A：大坂会所が本商人の根証文を預り、それと引き換えに津出しを許可
 →その後、この対応が他の都市会所にも広がる
 B：落札荷物を引き当てに大坂唐物問屋が代銀を銅座に納める
 C：大坂問屋が請け合う(保証) →仮説：海上切渡商内か？
 ・堺の本商人も大坂問屋の請合によって津出しが認められている
- 5) (A B Cのような)代銀未納の荷物を載せた船には大坂会所の職員(筆者・惣代)が乗船する
 =大坂会所が責任をもって落札荷物を大坂の荷受問屋に渡す
 ★海難事故の際、大坂会所の職員が本商人を連れて現地に赴き処理する
 「四ヶ所請払役・同糸目利役勤方書」
 * 代銀支払い後の荷物が海難事故にあった場合は荷受問屋が損害を負担？
- 6) 長崎奉行の提案(1798年)
 ◆提案1(1798年)
 ①これまで落札価格の1割を納めることが津出しの条件
 ②今後、根証文の金額に応じて津出しを認める
 ③大坂商人荷物に関して長崎奉行の提案
 ・大坂の問屋が銅座に落札代銀を納める「請負手形」を出す
 * 森岡はこれが荷為替のきっかけと仮説
 ・請負手形を銅座役人と町奉行所役人が確認し、津出しを認める
- ◆提案2
 ・没収荷物は相場変動のため長崎会所に損益が出る可能性がある
 ・大坂で処理させる
 ①没収荷物を大坂銅座に送る
 ②落札価格に諸経費を加えた金額を唐物問屋に提示して相談
 「唐物方」
- 7) 長崎会所から幕府への上納銀は大坂城御金蔵に保管する

6 輸入商品の国内流通促進：唐薬種

- 1) 背景：①宝暦以後、対中国貿易では薬種荒物が輸入総額の半ばを占める
②薬種相場は大きく変動する／唐薬種が入港すると下落
- 2) 薬種取引の特色
 - ①本商人は50日以内に入札代金を支払う義務(銅座へは30日以内)。
 - ②長崎での入荷は相場を高下させる
 - ③幕府は薬種取引の円滑・拡大を奨励
 - ④相場を読むため、中買は一度に唐薬種を買わない →取引円滑化の措置が必要
 - ⑤幕府は抜荷・似せ薬を禁止 →検査体制が必要
- 2) 課題： 買い控え、買い置き、買い占めの防止
- 3) 唐薬種の入札は2回
 - 長崎会所 …指し値による買い付け
 - 1回目 五ヶ所会所…本商人が入札
 - 2回目 大坂の唐薬問屋店…薬種中買が入札
- 4) 大坂の薬種商
 - ・本商人 …長崎で唐物を入札。荷主。大坂の唐薬問屋に販売を委託する
 - ・唐薬問屋 …荷主の商品(唐薬)を保管し、販売する。倉庫業、売支配
 - ・道修町薬種中買…薬種の買出。脇店(小売)、医師、合薬屋に薬を販売
 - ・小売・脇店 …一般の薬種商。医師、合薬屋に薬を販売
 - ・合薬屋 …胃薬・風邪薬などを処方し、名前をつけて販売
- 5) 問屋と中買
 - 問屋
 - ・蔵を所有 …収入は蔵敷料(貸倉庫)と口銭(手数料)。利益は小さい
 - ・荷主(売り手)の代理…箱単位の取引(買置)、先物取引を開拓
 - 中買(道修町)
 - ・全国の薬種問屋(買い手)の代表して相場を決め、商品の一部を購入
=輸入品が国内商品となる。買出しによって信用が生まれる。
- 6) 売出し(買出し)の手順
 - ・本商人→唐薬問屋へ商品発送／到着

唐薬問屋の店(蔵)

見本商品を荷解→薬種目利(真贋・交ぜ薬・品質)→入札(中買)→斤目改(中買)

 - ①唐薬問屋→売出：買出←薬種中買
 - ②入れ札により中買が一部を買い付ける
 - ③残りの商品は問屋が販売→全国の薬種問屋・医師・道修町中買・素人(投機目的)

*販売：A注文を受けて実商品を売る
B買置の注文を受ける
C先物取引の注文を受ける
- 7) 長崎会所に参考価格を提供
 - ・大坂で建物相場
- 8) 本商人の代銀納付を補助

- ・唐薬問屋が切渡商内を行う(海上切渡商内) 参考：大坂の問屋が請合証文
→薬種中買が資金を前貸し

9)取引拡大の工夫

①大坂の相場が長崎会所の指し値の参考になる (大意書巻 10 上 1)

- ・長崎に入荷した商品の情報(積荷帳)を飛脚便で大坂におくる
- ・この情報により大坂の唐物相場が高下する
- ・大坂相場が長崎に伝わる

②問屋の箱単位の取引は素人参加：投機目的の取引

前提条件：商品は問屋の蔵に保管しておく

質入　　：荷主が商品を担保に問屋から融資をうける。

買置　　：仲買や素人が値上がりを期待して買う。商品は問屋が保管

切渡商内：先物取引

並合　　：本商人の売出品を担保に問屋・中買が融資→商品は中買が売却

* 18世紀末、町奉行所が唐薬の囲込や並合を奨励

【小括】

A 長崎相場の目安(大坂唐物相場)	道修町が主導
B 本商人に対する代価の先渡し (切渡商内、買置、並合)	問屋が主導
C 抜荷の監視(交ぜ薬)	道修町が幕府と契約
D 輸入貨物が国内商品となる	道修町が主導

7 まとめ

1) 長崎貿易における大坂の役割

- ①長崎市民の飯米を大坂から回送
- ②輸出商品(棹銅・俵物・薬種)の調達・商品化
- ③輸入商品の買取・販売の円滑化
 - i 買取・入札価格の指標を形成
 - ii 落札荷物を国内交易品とする
- ④長崎貿易における金融の中心 (大坂城御金蔵・銅座・唐薬問屋などの連繋)
 - i 荷主への前貸金融
 - ii 落札代銀支払い保証＝津出し(大坂廻漕)の円滑化
 - iii 長崎貿易における金の流れを形成

1) 大坂城御金蔵

- ・長崎貿易に要する原資を提供
- ・長崎会所が幕府に納める上納銀を保管 →原資にまわる

2) 銅座の役割

- ・本商人から落札代銀を受け取る(本商人と取り引きのある唐薬問屋から受け取る)
- ・銅　：大坂銅座が荒銅の仕入と棹銅 (御用銅) の長崎送付を行う
- 俵物：大坂の俵物役所が畿内近国と北国方面の仕入、資金は銅座が支出

- ・大坂御金蔵から前貸を受け、荒銅・俵物を仕入
本商人の入金後、大坂御金蔵に返納
- 3) 大坂会所の役割
 - ・本商人と落札荷物の保証
 - ・津出し（長崎から大坂への廻漕）を実現
- 4) 唐薬問屋・薬種仲買の役割
 - ・落札荷物を国内商品に転化
 - ・販売促進の工夫
 - 本商人への落札代銀先渡し または 請合(支払い保証)
 - 切渡商内(先物取引)
- 5) 結論
 - ①長崎貿易は大坂なしには維持できなかった。：大坂銅座、俵物会所の存在
 - ②唐薬種の輸入・販売は大坂なしには維持できなかった。
 - A長崎相場が目安(大坂唐物相場) 道修町が主導
 - B本商人に対する代価の先渡し（切渡商内、買置、並合） 問屋が主導
 - C抜荷の監視(交ぜ薬) 道修町が幕府と契約
 - D輸入貨物が国内商品となる 道修町が主導
 - ★大坂・船場は長崎貿易のポンプ役(心臓)
 - ・貿易品の循環：大坂への集荷→全国へ発送
 - ・金の循環(金融)：貿易商人(本商人)は船場で代金を入手